

# 渋沢栄一と尾高惇忠の足跡を辿る



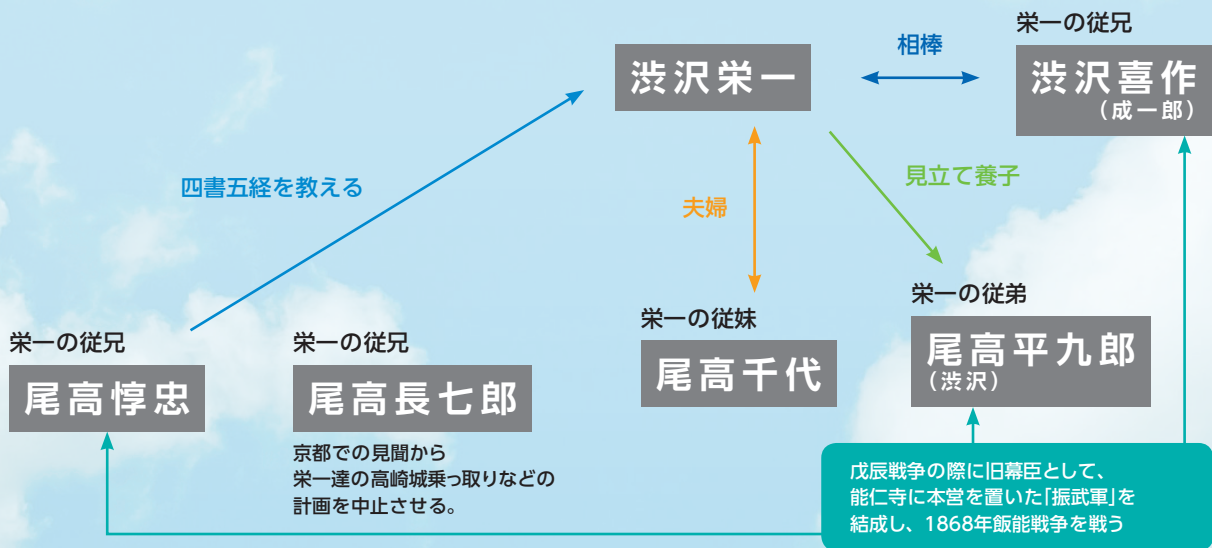
深谷市所蔵

## 渋沢 栄一 (1840~1931)

血洗島村(現在の埼玉県深谷市)出身の渋沢栄一は、「論語」の精神を重んじ「道徳経済合一説」を唱え、各種産業の育成と多くの近代企業の確立に努め、第一国立銀行をはじめ設立・育成に関わった企業は500余社に及んだ。

### 若き日の渋沢栄一の足跡

- 1840年 渋沢栄一 生まれる
- 1858年 尾高惇忠の妹・尾高千代と結婚
- 1863年 尊王攘夷思想に目覚め高崎城を乗っ取りなどの倒幕計画を立てるが尾高長七郎の説得で中止する
- 1864年 平岡円四郎の推挙により、一橋慶喜(徳川慶喜)に仕官
- 1867年 徳川慶喜が将軍となり幕臣となる  
フランス・パリ万国博覧会に参加する徳川昭武に随行する  
尾高平九郎を見立て養子にする
- 1869年 明治政府に仕官、租税正となる
- ⋮



## 旧渋沢邸「中の家」

渋沢栄一誕生地に建つ主屋は、栄一の妹夫婦によって明治28年(1895年)上棟された建物で、栄一は幕末の青年期をこの家の長男として過ごした。その頃、尊王攘夷思想に傾倒した栄一は、尾高惇忠らと高崎城の乗っ取り、横浜の外国人商館の焼き討ちを企てるが、計画は中止され、その混乱から文久3年(1863年)に23歳で「中の家」を離れた。



旧渋沢邸「中の家」で令和3年12月末まで公開している渋沢栄一アンドロイド  
写真：深谷市提供



渋沢栄一記念館所蔵

お だか じゅんちゆう  
**尾高 惇忠 (1830~1901)**

下手計村(現在の埼玉県深谷市)出身の尾高惇忠は、渋沢栄一の従兄で、学問の先生として、若き日の渋沢栄一に大きな影響を与えた。明治政府の民部省に入り、官営富岡製糸場の設立に計画当初から携わり、初代場長を努めた。

### 尾高惇忠生家

尾高惇忠は渋沢栄一の従兄にあたり、栄一は少年時代から惇忠のもとに通い、論語をはじめ多くの学問を学びました。知行合一の水戸学に精通し、栄一の人生に大きな影響を与えました。この生家は江戸時代後期に惇忠の曾祖父が建てたといわれ、若き日の惇忠や栄一らが、ときの尊王攘夷思想に共鳴し、高崎城乗っ取り、横浜の外国人商館の焼き討ちの密議をしたのもこの家の二階と伝わります。



### 渋沢栄一「青天を衝け」深谷大河ドラマ館

渋沢栄一の生誕地である深谷市で開催中の大河ドラマ館です。登場人物の紹介、人物相関図、エピソードの紹介に加え、ドラマに登場する「中の家」の再現セットと衣装や小道具などがあり、大河ドラマの世界をご堪能いただけます。



写真：深谷市提供